

# 島根大学ミュージアム年報

Annual Report of Shimane University Museum

平成20年度

2009.3

島根大学ミュージアム

Shimane University Museum

## 序 文

ミュージアム創設3年目となる平成20年度も、多種多様な業務の遂行に邁進してまいりました。

今年度は新たに、学内の先生方に専門分野に関わるテーマでご講演をお願いして、月に1回のペースで連続市民講座を開催しました。講演の内容が充実していたこともあり、おかげ様で、たくさんの市民・学生に聴講いただき、好評を博すことができました。聴講した方々からは、「島根大学でやっている貴重な研究成果が聴けて良かった。」「今後とも続けてほしい。」など、好意的なご意見・ご感想をいただきました。

ミュージアムでは、こうした普及啓発活動と並行し、本学構内における開発工事に伴う埋蔵文化財の保護・調査研究について、文化財保護法に準拠しながら取り組んでおります。特に今年度は、松江・出雲両キャンパスにおいて、学生支援センターや附属病院関係の新営工事を始めとした大規模な開発事業が相次ぎ、これらに伴う発掘調査に奔走することになりました。

また、本学が有する国登録文化財「島根大学旧奥谷宿舎（旧制松江高等学校外国人宿舎）」が、平成21年秋までに修復工事を完了し、サテライトミュージアム、サテライト教室、市民の交流拠点として活用されていくことが、大学長を始めとする学内外関係者のご英断によって正式に決定されました。本事業の推進は、多くの地域市民、本学教職員、卒業生の方々からのご理解とご支援なくしては、実現できないものであります。これまで、この活動に関わってきたミュージアムとしては、今後も全力で関係業務に邁進していきたいと、思いを新たにしているところです。

国立大学の個性や伝統を可視化していくうえで、大学ミュージアムは無くてはならない施設であると確信しております。わずかな教職員で運営されている小さな組織ではありますが、何事も真摯に取り組んでいく所存です。今後とも、学内外の皆様からのご支援ご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

平成21年3月

島根大学ミュージアム館長 松野 焯



# 目 次

I	規則・組織	
1	規則	1
	(1) 島根大学ミュージアム規則	
	(2) 島根大学ミュージアム管理運営委員会規則	
	(3) 島根大学ミュージアム専門委員会内規	
	(4) 島根大学構内における埋蔵文化財の取扱いに係る判断基準	
2	組織	7
	(1) 組織構成と構成員	
	(2) 管理運営委員会	
	(3) 専門委員会	
II	活動報告	
1	主な活動日誌抄	9
2	標本資料類等の収集、整理・保管、調査研究	10
	(1) 標本資料類等の収集	
	(2) 標本資料類等の整理・保管	
	(3) 標本資料類等の調査研究	
3	標本資料類等に関わる教育、普及啓発	11
	(1) 入館者数	
	(2) 常設展示	
	(3) 企画展示	
	(4) 展示案内・キャンパスツアーなど	
	(5) 公開講座など	
	(6) 講義	
4	博物館学教育	20
5	標本資料類等に関わる情報発信、地域貢献	20
	(1) 刊行物の発行・配布	
	(2) 新聞連載	
	(3) インターネット	
	(4) 地域貢献活動	
6	本学構内の埋蔵文化財の取扱い	21
	(1) 島根大学構内遺跡試掘調査・確認調査(学生支援センター新営工事予定地)	
	(2) 島根大学構内遺跡第17次調査(竹崎地区2)	
	(3) 島根大学構内遺跡試掘調査(教養講義室棟1号館改修工事予定地)	
	(4) 島根大学出雲キャンパス構内遺跡試掘調査(附属病院立体駐車場建設予定地)	
	(5) 島根大学出雲キャンパス構内遺跡試掘調査(医学部会館保育所増設予定地)	
	(6) 工事立会	
	(7) 島根大学構内遺跡第14・15・16・17次調査、島根大学出雲キャンパス構内遺跡試掘調査の整理・研究	
7	その他	28
	(1) 島根大学旧奥谷宿舎の保存活用事業に関する活動	
	(2) 大学博物館等協議会2008年大会(第3回博物科学会)への参加	
8	ミュージアム教員の活動記録	32
	(1) 会下和宏	



# I 規則・組織

## 1 規則

### (1) 島根大学ミュージアム規則

(平成18年島大規則第9号)  
(平成18年3月8日制定)  
〔平成19年2月28日一部改正〕

(趣旨)

第1条 この規則は、島根大学ミュージアム（以下「ミュージアム」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 ミュージアムは、学内共同教育研究施設として、島根大学（以下「本学」という。）における標本資料類等を大学所有の有形知的財産として位置づけ、それらを収集、整理・保管及び調査研究をしたうえで、展示公開等による教育、普及啓発、情報発信の促進及び地域貢献等を行うことを目的とする。

(業務)

第3条 ミュージアムは、次の各号に掲げる業務を行う。

- 一 標本資料類等の収集、整理・保管及び調査研究に関すること。
- 二 標本資料類等に関わる教育及び普及啓発に関すること。
- 三 博物館学教育に関すること。
- 四 標本資料類等に関わる情報発信の促進及び地域貢献に関すること。
- 五 本学構内の埋蔵文化財の取扱いに関すること。
- 六 その他ミュージアムの目的を達成するために必要な業務

(組織)

第4条 ミュージアムに、次の各号に掲げる職員を置く。

- 一 館長
- 二 副館長
- 三 専任教員
- 四 その他必要な職員

2 ミュージアムに兼任研究員及び学外協力研究員を置くことができる。

(館長)

第5条 館長の選考は、本学の専任教授のうちから、第10条に規定する島根大学ミュージアム管理運営委員会の発議に基づき、教育研究評議会の議を経て、学長が行う。

- 2 館長の任期は、2年とし、再任を妨げない。
- 3 館長は、ミュージアムの業務を掌理する。

(副館長)

第6条 副館長の選考は、本学の選任教員のうちから、第10条に規定する島根大学ミュージアム管理運営委員会の推薦に基づき、学長が行う。

- 2 副館長の任期は、2年とし、再任を妨げない。
- 3 副館長は、館長を補佐し、ミュージアムの業務を整理する。

(専任教員)

第7条 専任教員は、第3条に掲げられた事項に関し専門的知識又は相当な経験を有する者とする。

- 2 専任教員の選考は、教育研究評議会の議を経て学長が行う。

(兼任研究員)

第8条 兼任研究員は、ミュージアムの業務に関して専門的知識を有する者で、全学的立場からミュージアムの業務を推進する者とする。

2 兼任研究員は、本学専任教員のうちから、館長の推薦に基づき、学長が任命する。

3 館長は、前項の推薦に当たっては、当該教員が所属する部局等の長の同意を得るとともに、第10条に規定する島根大学ミュージアム管理運営委員会の議を経なければならない。

4 兼任研究員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

(学外協力研究員)

第9条 学外協力研究員は、ミュージアムの業務に関して専門的知識を有する学外の者で、ミュージアムの業務推進に協力する者とする。

2 学外協力研究員は、第10条に規定する島根大学ミュージアム管理運営委員会の議を経て、館長が委嘱する。

3 学外協力研究員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

(管理運営委員会)

第10条 ミュージアムに関する基本的事項を審議するため、島根大学ミュージアム管理運営委員会(以下「管理運営委員会」という。)を置く。

2 管理運営委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第11条 ミュージアムの事務は、財務部施設企画課、学術国際部社会・国際連携課及び学術国際部図書情報課の協力を得て、学術国際部研究協力課において処理する。

(雑則)

第12条 この規則に定めるもののほか、ミュージアムに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。

2 島根大学埋蔵文化財調査研究センター規則(平成16年島大規則第162号)は、廃止する。

附 則

この規則は平成19年10月1日から施行する。

## (2) 島根大学ミュージアム管理運営委員会規則

(平成18年島大規則第10号)

(平成18年3月8日制定)

[平成19年2月28日一部改正]

(趣旨)

第1条 この規則は、島根大学ミュージアム規則(平成18年島大規則第9号)第10条第2項の規定に基づき、島根大学ミュージアム管理運営委員会(以下「管理運営委員会」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 管理運営委員会は、島根大学ミュージアム(以下「ミュージアム」という。)に関し、次の各号に掲げる事項を審議する。

一 管理運営の基本方針及び事業計画に関すること。

二 本学構内の埋蔵文化財の取扱いに関すること。

三 館長及び副館長の推薦に関すること。

四 教員の人事(資格審査を含む)に関すること。

五 予算及び決算に関すること。

六 その他ミュージアムの管理運営に関すること。

(組織)

第3条 管理運営委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- 一 館長
  - 二 副館長
  - 三 ミュージアムの専任教員
  - 四 各学部教員代表 各1名
  - 五 附属図書館長
  - 六 総合情報処理センター長
  - 七 生涯学習教育研究センター長
- 2 第1項第4号の委員は、学部長の申出に基づき、学長が任命する。
  - 3 第1項第4号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
  - 4 管理運営委員会に委員長を置き、委員長は館長をもって充てる。  
(会議)
- 第4条 管理運営委員会は、委員長が招集し、議長は委員長をもって充てる。
- 2 委員長に事故があるときは、副館長がその職務を代理する。
  - 3 管理運営委員会は、委員の3分の2以上が出席しなければ会議を開くことができない。
  - 4 管理運営委員会は、出席者の過半数をもって議決し、可否同数のときは議長の決するところによる。
  - 5 管理運営委員会が必要と認めたときは、管理運営委員会に委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。  
(専門委員会)
- 第5条 管理運営委員会に専門的事項を審議するため、必要に応じて、専門委員会を置くことができる。
- 2 専門委員会に関し必要な事項は、管理運営委員会が別に定める。  
(事務)
- 第6条 管理運営委員会の事務は、財務部施設企画課、学術国際部社会・国際連携課及び学術国際部図書情報課の協力を得て、学術国際部研究協力課において処理する。
- 附 則  
この規則は、平成18年4月1日から施行する。
- 附 則  
この規則は平成19年10月1日から施行する。

### (3) 島根大学ミュージアム専門委員会内規

(平成18年4月28日制定)

(趣旨)

第1条 島根大学ミュージアム管理運営委員会規則第5条第2項の規定に基づき、島根大学ミュージアム専門委員会（以下「専門委員会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(専門委員会)

第2条 専門委員会に次の各委員会を置く。

一 埋蔵文化財専門委員会

- ・埋蔵文化財の発掘調査・試掘調査・確認調査・工事立会に係る基本計画に関すること。
- ・埋蔵文化財の修復保存に係る基本計画に関すること。
- ・その他埋蔵文化財に関する事項

二 普及啓発専門委員会

- ・シンポジウム、研究会、公開講座等の企画及び実施
- ・ニュースレター、広報等の編集・刊行
- ・その他普及啓発に関する事項

(組織)

第3条 専門委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

一 館長

二 副館長

三 ミュージアムの専任教員

四 ミュージアム兼任研究員のうちから若干名

2 第1項第4号の委員は、館長の推薦に基づき、学長が任命する。

3 第1項第4号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

4 専門委員会に委員長を置き、委員長は館長をもって充てる。

(会議)

第4条 専門委員会は、委員長が招集し、議長は委員長をもって充てる。

2 委員長に事故があるときは、副館長がその職務を代理する。

附 則

1 この内規は、平成18年4月26日から施行する。

2 この内規施行後、実状に即して内規を変更することができる。

#### (4) 島根大学構内における埋蔵文化財の取扱いに係る判断基準

##### 1 目的

本基準は、文化財保護法（昭和25年法律第214号）の趣旨を尊重し、島根大学敷地内の開発事業に伴う埋蔵文化財の取扱いに係る基本的な判断基準を定め、埋蔵文化財を適切に保護し、将来への保存を図ることを目的とする。

##### 2 適用対象

本基準は、島根大学が所有する全ての敷地内における開発に伴う埋蔵文化財取扱いに適用する。

##### 3 定義

(1)「試掘調査」とは、埋蔵文化財の有無が地表面の観察等からでは判断できない場合に、部分的に発掘する調査をいう。

(2)「確認調査」とは、埋蔵文化財包蔵地の範囲・性格・内容等の概要までを把握するため、部分的に発掘する調査をいう。

(3)「発掘調査」とは、開発事業等に際し、影響を受ける埋蔵文化財を事前に発掘し、詳細な記録を作成する措置を執ることをいう。

(4)「工事立会」とは、工事の施工に際し、専門職員等が立ち合い、遺構・遺物包含層等が確認される等のことがあった場合には、必要に応じて適切な措置を執ることをいう。

(5)「慎重工事」とは、埋蔵文化財包蔵地において工事を行うものであることを十分認識したうえで慎重に施工することをいう。

##### 4 埋蔵文化財として取扱う時代範囲

(1) 近世までに属する遺跡は、原則として全て埋蔵文化財として取扱うこととする。

(2) 近現代の遺跡については、島根県や各市町村ならびに島根大学の歴史解明のために重要なものを埋蔵文化財として取り扱うこととし、その決定は、島根大学ミュージアム埋蔵文化財専門委員会において行なうこととする。

##### 5 「発掘調査」を要する範囲の決定

埋蔵文化財の「発掘調査」を要する範囲は、それまでに行われた諸調査の成果に加え、必要に応じて「試掘調査」・「確認調査」等を実施したうえで、島根大学ミュージアム埋蔵文化財専門

委員会において決定する。

## 6 埋蔵文化財取扱いの判断基準

開発事業に際しての埋蔵文化財の取扱いについては、次の原則と別表に基づいて、「発掘調査」その他の措置を講ずるものとし、その決定は、島根大学ミュージアム埋蔵文化財専門委員会において行なうこととする。

(1) 次の場合においては、「発掘調査」を実施するものとする。

ア 工事により埋蔵文化財が掘削され、破壊される場合。

イ 掘削が埋蔵文化財に影響を及ぼさない場合であっても、工事によって地下の埋蔵文化財に影響を及ぼすおそれのある場合。

ウ 一時的な工作物の設置や盛土・埋立の場合であっても、その重さによって地下の埋蔵文化財に影響を及ぼすおそれのある場合。

エ 恒久的な工作物の設置や盛土・埋立により、埋蔵文化財と人との関係が絶たれ、当該埋蔵文化財が損壊したのに等しい状態となる場合。

(2) 次の場合においては、「工事立会」を行うものとする。

ア 一時的な工作物の設置や盛土・埋立で、現地で状況を確認する必要がある場合。

イ 恒久的な工作物の設置や盛土・埋立の場合であっても、将来的に発掘調査が可能な条件が満たされると判断される場合。

(3) 既に行われた土木工事等により埋蔵文化財が損壊を受けた範囲内の工事で、埋蔵文化財に新たな影響が生じないと判断される場合等は、「慎重工事」の措置を講ずる。なお、施工中に遺構・遺物を発見した場合は、速やかにミュージアムに連絡をとり、所定の手続きをとる。

## 7 島根県教育委員会・関係市町村教育委員会との連携について

埋蔵文化財の取扱いに関しては、島根県教育委員会をはじめ関係市町村教育委員会と十分な連携をはかり、慎重に判断するものとする。

## 8 開発計画から埋蔵文化財取扱いまでの流れ

開発計画から埋蔵文化財取扱いまでの流れは、別図に基づいて適切に進めるものとする。

### 附則

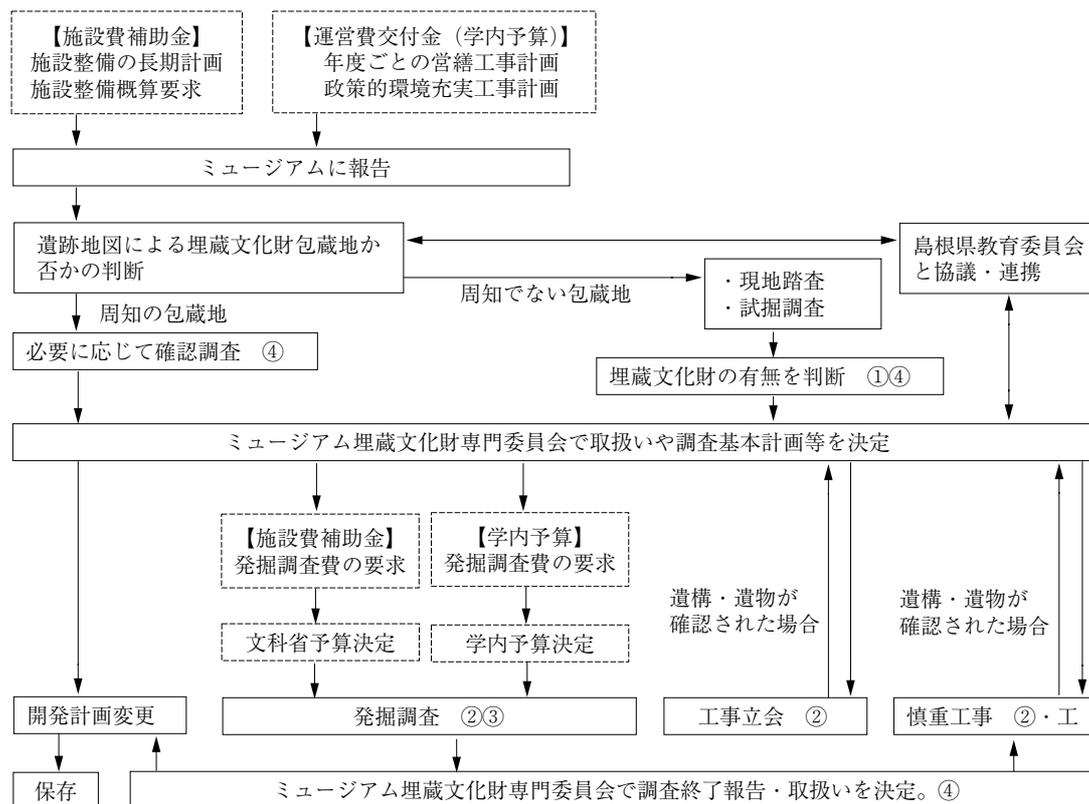
本基準は、平成18年4月1日から適用する。

### 別表

工事内容・種類	取扱い	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 工事により埋蔵文化財が掘削され、破壊される場合。</li> <li>・ 掘削が埋蔵文化財に直接及ばない場合であっても、工事によって地下の埋蔵文化財に影響を及ぼすおそれがある場合。</li> <li>・ 通常20年以上の耐久度を有しない一時的な工作物の設置や盛土・埋立の場合であっても、その重さによって地下の埋蔵文化財に影響を及ぼすおそれのある場合。</li> </ul>	開発事業等に際し、事前に「発掘調査」を実施し、詳細な記録を作成する。	<b>発 掘 調 査</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 通常20年以上の耐久度を有した恒久的な工作物の設置や盛土・埋立により、埋蔵文化財と人との関係が絶たれ、当該埋蔵文化財が損壊したのに等しい状態になる場合。</li> </ul>		
道路		
厚さ2m以上の恒久的な盛土・埋立 校舎・共同溝等の建築物・埋納物		

<p>・一時的な工作物の設置や盛土・埋立で、現地で状況を確認する必要がある場合。</p> <p>・恒久的な工作物の設置や盛土・埋立の場合であっても、将来的に発掘調査が可能な条件が満たされると判断される場合。</p>	<p>工事の施工中に調査員が立ち会い、遺構・遺物包含層等が確認される等のことがあった場合には、その記録をとり、工事を変更する等、適切な措置を講ずる。</p>	<p>工 事 立 会</p>									
<table border="1"> <tr> <td data-bbox="240 365 424 432">道路</td> <td data-bbox="432 365 786 432">歩道 植樹帯・緑地帯</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="240 432 786 465">野球場・競技場</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="240 465 786 499">駐車場</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="240 499 786 533">公園・緑地</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="240 533 786 797">厚さ2m未満の恒久的な盛土・埋立</td> </tr> </table>	道路		歩道 植樹帯・緑地帯	野球場・競技場		駐車場		公園・緑地		厚さ2m未満の恒久的な盛土・埋立	
道路	歩道 植樹帯・緑地帯										
野球場・競技場											
駐車場											
公園・緑地											
厚さ2m未満の恒久的な盛土・埋立											
<p>・既に行われた土木工事等により埋蔵文化財が損壊を受けた範囲内の工事で、埋蔵文化財に新たな影響が生じないと判断される場合。</p>	<p>埋蔵文化財包蔵地において工事を行うものであることを十分認識したうえで、慎重に施工し、遺構・遺物を発見した場合は、速やかにミュージアムに連絡をとる。</p>	<p>慎 重 工 事</p>									

別図 開発と埋蔵文化財取扱いについてのフローチャート



(注)

- ①遺構・遺物を確認した場合、「遺跡発見届」を鳥根県教育委員会（市町村教育委員会経由）に提出。
- ②「埋蔵文化財発掘届（文化財保護法）第93条第1項」を調査（工事）開始60日前までに鳥根県教育委員会（市町村教育委員会経由）に提出
- ③「埋蔵文化財発掘届（文化財保護法92条第1項）」を調査開始30日前までに鳥根県教育委員会（市町村教育委員会経由）に提出。
- ④遺物を発見した場合、「埋蔵文化財発見届」を所轄警察署に提出。

## 2 組織

### (1) 組織構成と構成員

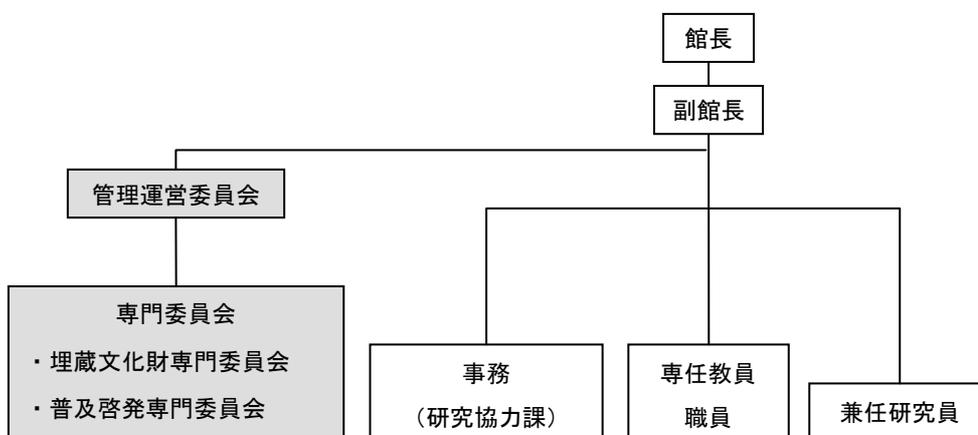


図1 ミュージアムの組織図

館長	生物資源科学部	教授	松野 煒
副館長	法文学部	教授	渡邊 貞幸 (平成20年4月25日まで)
	ミュージアム	准教授	會下 和宏 (平成20年4月26日から)
兼任研究員	法文学部	教授	大橋 泰夫
	法文学部	准教授	山田 康弘
	法文学部	准教授	舩杉 力修 (平成20年7月31日まで)
	法文学部	准教授	小林 准士
	教育学部	准教授	西田 兼
	教育学部	教授	林 正久
	医学部	教授	大谷 修司
	総合理工学部	教授	小林 裕太
	総合理工学部	教授	三瓶 良和
	生物資源科学部	准教授	酒井 哲弥
	生物資源科学部	教授	片桐 成夫
	生物資源科学部	准教授	秋吉 英雄
職員	研究協力課	技術補佐員	田中 浩子

### (2) 管理運営委員会

委員長	館長	教授	松野 煒
委員	副館長 (平成20年4月25日まで)	教授	渡邊 貞幸 (平成20年4月25日まで)
	副館長 (平成20年4月26日から)・専任	准教授	會下 和宏
	法文学部	教授	大橋 泰夫
	教育学部	教授	林 正久
	医学部	教授	安井 幸彦
	総合理工学部	教授	横田修一郎
	生物資源科学部	教授	北村 憲二
	附属図書館長	教授	平川 正人
	総合情報処理センター長	教授	野田 哲夫
	生涯学習教育研究センター長	教授	堀口 淳

### (3) 専門委員会

#### 埋蔵文化財専門委員

委員長	館長	教授	松野 煒
委員	副館長（平成20年4月25日まで）・法文学部	教授	渡邊 貞幸
	副館長（平成20年4月26日から）・専任	准教授	會下 和宏
	法文学部	教授	大橋 泰夫
	法文学部	准教授	山田 康弘
	教育学部	教授	林 正久
	総合理工学部	教授	三瓶 良和
	総合理工学部	准教授	酒井 哲弥
	生物資源科学部	教授	片桐 成夫

#### 普及啓発専門委員

委員長	館長	教授	松野 煒
委員	副館長（平成20年4月25日まで）	教授	渡邊 貞幸（平成20年4月25日まで）
	副館長（平成20年4月26日から）・専任	准教授	會下 和宏
	法文学部	准教授	舩杉 力修（平成20年7月31日まで）
	法文学部	准教授	小林 准士
	法文学部	准教授	西田 兼
	教育学部	教授	林 正久
	教育学部	教授	大谷 修司
	医学部	教授	小林 裕太
	総合理工学部	教授	三瓶 良和
	総合理工学部	准教授	酒井 哲弥
	生物資源科学部	准教授	秋吉 英雄

## Ⅱ 活動報告

### 1 主な活動日誌抄

平成20年

- 4月17日 ミュージアム埋蔵文化財専門委員会開催。
- 4月22日 寧夏大学の副学長・先生方がミュージアム本館を見学。
- 4月23～24日 島根大学松江キャンパス・学生支援センター建設に伴う試掘調査・確認調査実施。
- 4月24日 ミュージアム埋蔵文化財専門委員会（学生支援センター建設に伴う試掘調査現地検討会）開催。
- 4月23日 ミュージアム管理運営委員会開催
- 4月27日 「永井隆博士・生誕百年記念コンサート・講演会（雲南市・島根大学医学部共催）」でパネル展示。
- 5月16日 汽水域研究センター「山陰地域展示資料室」を改装に伴い、展示リニューアルし、オープン。
- 5月21日 第3回「国登録文化財・島根大学旧奥谷宿舎（旧制松江高校外国人宿舎）の保存活用を考えるワークショップ（参加型学習会）」を開催。約50名参加。
- 5月26日 アーカンソー大学の留学生が、ミュージアムを見学。
- 6月4日～7月31日 島根大学附属図書館・ミュージアム・各部局共同ミニ展示「島根大学演習林の木々たち」を開催。
- 6月11日 「日南町笠木老人くらぶ」18名が、山陰地域資料展示室を見学。
- 6月28日 第1回ミュージアム市民講座「島根大学の履歴書～文化財が語る松江キャンパスと周辺の歴史」を開催。
- 7月12日 第2回ミュージアム市民講座「アフリカ東部ケニアの地層から、1千万年前のアフリカに吹いた風をよむ」を開催。
- 7月14日 京都大学考古学研究室25名が、ミュージアムを見学。
- 7月17日～9月19日 島根大学松江キャンパス・学生支援センター建設に伴う島根大学構内遺跡第17次発掘調査を実施。
- 7月28日 松徳学院高等学校1年生23名がキャンパスツアーに参加。
- 7月31日 広島県の高校生がキャンパスツアーに参加。
- 8月8日 島根大学オープンキャンパスで高校生90名が山陰地域資料展示室を見学。
- 8月9日 第3回ミュージアム市民講座「大森文庫に見る江戸末期華岡家の薬方」を開催。
- 8月10日 夏休み子どもミュージアム体験教室「宍道湖・水辺の生き物教室」を開催。
- 8月22日 松江市内の高校生がキャンパスツアーに参加。
- 9月5日 ミュージアム埋蔵文化財専門委員会（島根大学構内遺跡第17次調査現地検討会）開催。
- 9月18日 ミュージアム埋蔵文化財専門委員会開催。
- 9月22日 岡山県の高校生がキャンパスツアーに参加。
- 9月27日 第4回ミュージアム市民講座「風土記はどのように読まれ、広まったか―出雲国風土記の流布と伝来」を開催。
- 9月28日 松江市立玉作資料館友の会30名が旧奥谷宿舎を見学。
- 10月11日 第2回ホームカミングデーの一環でキャンパスツアーを実施。
- 10月11日 第4回「国登録文化財・島根大学旧奥谷宿舎（旧制松江高校外国人宿舎）の保存活用を考えるワークショップ～戦後の旧奥谷宿舎に住まわれたアロンスタイン博士をめぐって～」を開催。
- 10月11日 第5回ミュージアム市民講座「初代松江市長・福岡世徳（つきのり）の松江振興策」を開催。
- 10月10日～12日 学園祭企画・島大ミュージアム・クイズラリー「クイズに答えてシマダイ・ミュージアムグッズをゲットしよう！」を開催。約200名が参加。
- 10月18日 三重県の高校生がキャンパスツアーに参加。
- 10月23日 横浜市の高校生がキャンパスツアーに参加。
- 10月30日 出張授業で松江ろう学校の児童と松江城下町歩き。
- 10月30日 台湾の大学の教員・学生がミュージアムを見学。
- 11月1日 NPO 法人松江まちづくり塾の皆様20名が島根大学旧奥谷宿舎を見学。

- 11月4日～14日 山陰地域資料展示室を開放し、学生による展示解説実習を実施。
- 11月15日・22日 鳥根大学公開講座「第3回・鳥根まるごとミュージアム体験ツアー」を実施。
- 11月22日 第6回ミュージアム市民講座「伝統的建造物群を活かしたまちづくり」を開催。
- 11月26日 ガーナやラオスから来られた JICA 訪問団がミュージアムを見学。
- 11月27日～平成21年2月28日 鳥根大学附属図書館・ミュージアム・各部局共同ミニ展示「人類誕生～島大など国際研究チームのケニアでの調査成果から～」を開催。
- 12月8日～26日 附属病院立体駐車場建設に伴う鳥根大学出雲キャンパス試掘調査実施。
- 12月18日 松江キャンパス・教養講義室棟1号館改修工事に伴う試掘調査実施。
- 12月18日 ミュージアム埋蔵文化財専門委員会(教養講義室棟1号館改修工事に伴う試掘調査現地検討会)開催。
- 12月20日 第7回ミュージアム市民講座「江戸時代における白濁本町と鉄(たたら)の流通」を開催。
- 12月21日 冬休み・子どもミュージアム体験教室「虹を作って観察しよう!」を開催。
- 12月22日～26日 医学部会館保育所増設に伴う鳥根大学出雲キャンパス試掘調査実施。
- 12月24日 ミュージアム埋蔵文化財専門委員会(出雲キャンパス試掘調査現地検討会)開催。
- 平成21年
- 1月13日 ミュージアム管理運営委員会開催。
- 1月31日 第8回ミュージアム市民講座「江戸時代の結婚・出生一石見銀山領の宗門改帳から見る」を開催。
- 2月14日 第9回ミュージアム市民講座「松江藩の秘話について一実録の世界一」を開催。
- 2月20日 プロジェクト研究の一環で、まちあるきマップ「松江温故知新く橋南版」を発行・配布。
- 3月9日 旧鳥取県蚕業指導所から製糸業関係の機器資料など受入れ。
- 3月14日 第10回ミュージアム市民講座「『類題八雲集』にみる松江藩士の歌」を開催。
- 3月14日 春の子どもミュージアム体験教室「みんなであつろうタイムカプセル!」を開催。

## 2 標本資料類等の収集・整理・保管・調査研究

### (1) 標本資料類等の収集

昭和26～31年、鳥根大学旧奥谷宿舎に居住していたバーソルド・アロンスタイン博士に関する資料、写真などを収集した。

また、旧鳥取県蚕業指導所の下記資料が、建物解体によって廃棄されることになり、山陰地域における近代産業を研究するうえでも貴重であることから、竹永三男法文学部教授の仲介で、研究資料として鳥取県より寄贈を受けた。

受入元 旧鳥取県蚕業指導所(米子市旗ヶ崎7丁目6番1)

受入日 平成21年3月9日(月)

資料名	数量	備考
手動括糸機(手動式)	1台	やや重量あり
生糸捻造器(壁掛け式)	1器	柱にねじ止めされているが、取り外し可能
生糸計量用の分銅	2セット	
繭袋(綿布製)	5袋	袋体に「長崎県蚕業協同組合联合会」と書かれているもの(朝鮮総督府の米袋再利用)等
生糸計量用のはかり(金属製)	5台	

### (2) 標本資料類等の整理・保管

鳥根大学構内遺跡出土遺物や上記標本類等のミュージアム所蔵資料は、ミュージアム本館の建物内収蔵部屋において適切な環境のもとに整理・保管している。しかし、既に飽和状態であり、将来的に別の収蔵室確保が必要な状況となっている。

### (3) 標本資料類等の調査研究

#### ① 島根大学構内遺跡出土遺物の研究

「Ⅲ－6 本学構内の埋蔵文化財の取扱い」で後述する。

#### ② 島根大学及び前身校に関する資料調査

事務局が所蔵する本学や前身校の写真、行政文書等を収集し、特に、島根大学旧奥谷宿舎（旧制松江高等学校外国人宿舎）や本学に在籍していた過去の著名な教官等について調査した。このうち、昭和26～31年、島根大学旧奥谷宿舎に居住していたバーソルド・アロンスタイン博士については、当時を知る関係者などから聞き取り調査を実施し、後述する第4回「国登録文化財・島根大学旧奥谷宿舎（旧制松江高校外国人宿舎）の保存活用を考えるワークショップ（参加型学習会）」で成果を公表した。

## 3 標本資料類等に関わる教育、普及啓発

### (1) 入館者数

学内の展示施設のうち、ミュージアム本館（ミュージアム管轄）と山陰地域・汽水域資料展示室（汽水域研究センター管轄）の入館者数は下表の通りである。

ミュージアム本館は、常時（午前9時～午後4時30分）開放して、見学者を受け入れる体制になっているが、山陰地域・汽水域資料展示室は、通常は閉鎖されており、見学希望者のみに案内するため、団体見学者が多数を占めている。

博物館学関連授業や特別授業「島大ミュージアム学」において、展示室解説の実践と見学を教育プログラムに組み込んだ結果、学生の入館者数が増加した。来年度以降は、博物館学関係の授業がミュージアム開講となり、担当授業が増加するため、さらに大学ミュージアムを活用した教育プログラムを実践していきたい。

例年通り、冬季には、学外団体客が減少する傾向がみられた。次年度以降、さらに広報・周知をはかり、1ヶ月あたりコンスタントに100人以上の入館者数確保を目指したい。

また、小規模展示室が分散し、ミュージアム本館以外が通常閉鎖されている現状では、とびこみの見学者を増やしていくため、やはり、ある程度のボリュームをもつ一元的なコア展示室を整備することが早急に求められる。

#### 平成20年度の入館者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
ミュージアム本館	51	29	34	80	12	22	219	59	14	36	33	31	620
山陰地域・汽水域資料展示室	—	30	24	66	99	1	398	134	13	30	3	10	808
計	51	59	58	146	111	23	617	193	27	66	36	41	1428

### (2) 常設展示

島根大学ミュージアムは、学内にある様々な展示施設・資料を「まるごとミュージアム」として位置付け、総称したものである。主な展示施設・内容は以下の通りである。

#### ① 松江キャンパス

##### 島根大学ミュージアム本館

島根大学ミュージアムのコア施設である。島根大学のキャンパス内は、大学ミュージアム（平成6～17年度は埋蔵文化財調査研究センター）によって、永年にわたり発掘調査がおこなわれており、主に、こうした島大キャンパス出土の考古資料を展示している。また、本館には、ミュージアム職員が常駐し、島根大学ミュージアムの総合案内、情報発信等を行っている。

■月～金・午前9時～午後4時30分開館。開館時間内は自由に見学できる。事前に予約すれば、

祝休日でも開館。

#### 正門門柱（国登録文化財）

1924（大正13）年3月建造。松江市忌部産の花崗岩（白御影石）製の正門柱2、脇門柱2からなる。旧制松江高等学校の正門として制作・使用された後、島根大学の正門として受け継がれた。2007（平成19）年5月、国登録文化財に登録された。

#### 「総合理工学部」研究紹介コーナー（総合理工学部3号館1階ロビー）

総合理工学部の教育研究内容や所蔵標本の一部が展示してある。

■月～金・午前8時30分～午後5時開館。開館時間内は自由に見学できる。

#### ミニ学術植物園「みのりの小道」(生物資源科学部棟周辺)

生物資源科学部によって運営されている、くつろぎながら学べる植物園。花壇などのほか、研究成果や豆知識などを説明したパネルを配置。整備作業には、学生や地域市民も参加している。

■年中無休。自由に見学できる。

#### 「古代出雲文化資料調査室」展示室（ミュージアム本館北隣）

法文学部考古学研究室が所蔵する考古資料の一部を展示している。1953（昭和28）年、文理学部の一室に設けられた標本室が、1978（昭和53）年、法文学部歴史学陳列室となり、2005（平成17）年3月、「古代出雲文化資料調査室」2階に移設された。膨大な量の収蔵資料は、故山本清名誉教授によって収集されたものや旧制松江高等学校に保管されていたものなどからなり、日本の考古学を研究するうえで大変、貴重なものが多く含まれている。

■普段は閉館しているが、見学希望者は、ミュージアム本館の職員に申し込めば開館する。

#### 山陰地域・汽水域資料展示室（汽水域研究センター1階内）

汽水域研究センターの前身である山陰地域研究総合センターが中心となり、昭和62年10月に「山陰地域研究総合センター資料展示室」が開設された。本展示室は、平成4年4月に汽水域研究センターが設置されたことに伴い、これを引き継いだものである。動物標本、化石・岩石標本、考古資料など、山陰地域・汽水域に関わる様々な分野の資料が総合的に展示してある。

■月～金・午前9時～午後4時開館。見学希望者は、ミュージアム本館の職員か汽水域研究センター事務室の職員に申し込めば対応。予約不要。

#### 「同窓会連合会」展示コーナー（附属図書館1階内）

島根大学や前身校である松江高等学校・島根師範学校・島根農科大学などの学校史に関わる写真・資料などが展示してある。

■月～金・午前10時～午後3時開館。開館時間内は自由に見学できる。

#### 附属図書館本館

附属図書館本館には、一般の蔵書のほか、膨大な量の古文書、絵図、貴重資料などが所蔵されている。正面入口を入って左側にミニ展示コーナーがあるほか、3階に小泉八雲関係の書籍・パネルを展示した「八雲文庫（8：30～17：00）」が設けてある。

■開館時間 月～金：午前9時～午後9時30分（授業のない期間は午後5時まで）

土・日・祝休日：午前10時～午後5時30分（授業のない期間は休館）

■休館日 授業のない期間の土・日・祝休日、定例図書整理日（偶数月第4水曜日）

年末年始（12月29日～1月4日）、特別整理期間（8月中旬及び3月下旬）

#### 「菅田ヶ丘古墳」移築展示

第2食堂の横には、移築復元された「菅田ヶ丘古墳」がある。もともとは、ここから西方約50mの丘の上にあった、長さ約30m・高さ約3.5mの古墳です。5世紀後半頃につくられたと考えられている。

■年中無休。自由に見学できる。

## ②出雲キャンパス

#### 附属図書館医学分館

附属図書館医学分館には、一般の蔵書のほか、大森文庫、古医書、明治以前の医療器具などがある。このうち、2階閲覧室前廊下には、華岡青洲の業績、大森不明堂三楽が学んだ華岡流医

術、不明堂の医学塾生活、地元母里藩に帰国後の大森家の診療など、10枚のパネルで、大森文庫の内容を概観することができる。

■開館時間 月～金：午前9時～午後8時、土・日・祝休日：午前10時～午後4時

■休館日 年末年始（12月28日～1月4日）その他分館長が認めた日

#### 平野勲画伯ギャラリー（附属病院総合ホール内）

附属病院総合ホールの一角にて、地元出雲市の出身で、ふるさとのまつり・郷土芸能を描き続ける著名な漫画家・平野勲画伯の作品を展示。

### （3）企画展示

#### ①島根大学ミュージアム・附属図書館・各部局共同ミニ展示「島根大学演習林の木々たち」

主催 島根大学ミュージアム・島根大学附属図書館・島根大学生物資源科学部 附属生物資源教育研究センター森林科学部門

期間 平成20年6月4日（水）～7月31日（木）

会場 島根大学附属図書館本館（松江）ミニ展示コーナー

#### 内容

「島根大学生物資源科学部附属生物資源教育研究センター・森林科学部門（演習林）」は、森林についての教育や研究を行うための「野外の教室・研究室」である。当演習林では、教育研究の一環として、永年にわたって、たくさんの樹木の「さく葉標本」「種子標本」を収集してきた。

本企画展示では、こうしたコレクションの一部を紹介する。

主な展示資料（生物資源科学部附属生物資源教育研究センター・森林科学部門所蔵）

- ・森林科学部門が演習林で収集したさく葉標本
- ・森林科学部門が演習林で収集した種子乾燥標本

#### ②島根大学ミュージアム・附属図書館・各部局共同ミニ展示「人類誕生～島大など国際研究チームのケニアでの調査成果から～」

主催 島根大学ミュージアム・島根大学附属図書館・澤田順弘教授・酒井哲弥准教授（島根大学総合理工学部）

期間 平成20年11月28日（金）～12月26日（金）

会場 島根大学附属図書館本館（松江）ミニ展示コーナー

#### 内容

「ヒトはいつ、どこで、どのようにして誕生したのか？」は、最大の謎である。島根大学、京都大学、ケニア国立博物館などの国際研究チームは、人類の祖先を求め、永年にわたって、アフリカ大陸・ケニアで発掘調査を進めてきた。本企画展示では、こうした研究成果の一部を貴重な資料とともに紹介する。

展示テーマごとの詳細内容は以下の通り。

##### 1. 人類以前～大型類人猿

21世紀にはいり、アフリカでの調査によって、類人猿についての、これまでの学説を塗りかえる発見があいついだ。アフリカ大陸で発見された類人猿化石のうち、最古の人類に近い年代を示すものは、1982年にケニアで発見された“サンプルピテクス”（960万年前）のみだった。しかし、2005年以降、エチオピアで“チョローラピテクス”（1000万年前頃）が、ケニアで“ナカリピテクス”（990万年前）が、あいついで発見された。

以上の研究状況を標本資料、写真、解説文などで展示する。

##### 2. 人類登場

最古の人類と考えられているのは、近年、中央アフリカ・チャドで発見された“サヘラントロプス・チャデンシス”（700～600万年前）である。人類誕生は、700～600万年前までさかのぼることになった。また、東アフリカ最古の人類化石は、ケニアで発見された“オロリン・ツゲネンシス”（590～570万年前）である。

近年、“アウストラロピテクス属”にはいる古人類も続々と発見されている。有名なものは、

“アウストラロピテクス・アフリカヌス”(320～230万年前)。この“アウストラロピテクス属”の一部から、私たち現代人が属する“ホモ属”が分岐した。DNA研究によれば、私たち“ホモ・サピエンス”は、20万年前頃にアフリカにいた集団が、世界中に広がっていったようである。まさにアフリカは、人類の故郷である。

以上の研究状況を標本資料、写真、解説文などで展示する。

#### 主な展示資料（総合理工学部・澤田順弘教授所蔵）

- ・新発見の大型類人猿化石「ナカリピテクス・ナカヤマイ(Nakalipithecus nakayamai)」の歯付き顎骨（レプリカ）
- ・メスゴリラの頭骨（レプリカ）
- ・最古級の人類化石「オロリン・ツゲネンシス（Orrorin tugenensis）」の大腿骨と歯付き顎骨（レプリカ）
- ・人間とチンパンジーの大腿骨（レプリカ）
- ・古人類化石「アウストラロピテクス・アフリカヌス（タウングの子供）」(レプリカ)
- ・その他、パネル、写真、論文など

#### （４）展示案内・キャンパスツアーなど

##### ①展示案内

ミュージアム本館に来館した見学者に分かりやすく展示解説したり、別の場所にある展示施設に誘導・案内したりした。

##### ②キャンパスツアー

地域市民、学校、学内教職員等から予約をうけて、下記の①～⑧基本コースを中心に、学内の展示施設等を解説しながら案内した。

- ①旧制松江高校～島根大学正門の門柱（国登録文化財）
- ②総合理工学部3号館1F研究紹介コーナー・3号館高層階からキャンパスや市街地を展望
- ③ミュージアム本館
- ④古代出雲文化資料調査室
- ⑤みのりの小道（ミニ学術植物園）
- ⑥汽水域研究センター「山陰地域・汽水域資料展示室」
- ⑦菅田ヶ丘古墳（移築復元）
- ⑧附属図書館、同窓会連合会展示コーナー

主な実施状況は「Ⅲ－1 主な活動の日誌抄」に記してある。今年度は、市内の高校や横浜市、広島県、岡山県、三重県の受験生などからの参加があった。受験生に島根大学の様子を知ってもらううえで、地味だが、重要な活動であることを再認識した。また、10月11日（土）の学園祭期間中に開催された第2回ホームカミングデーの一企画としても、キャンパスツアーを実施した。

##### ③学園祭特別企画「島大ミュージアム・クイズラリー（クイズに答えてシマダイ・ミュージアムグッズをゲットしよう!）」

日時 平成20年10月11日（土） 午前9時～午後4時  
平成20年10月12日（日） 午前9時～午後4時  
平成20年10月13日（月） 午前9時～午前12時

場所 島根大学ミュージアム本館展示室・山陰地域資料展示室・みのりの小道

内容 学内の展示室やミニ植物園をめぐって、展示内容に関するクイズに答えてもらい、全問正解で島根大学附属農場産ジャムなどのクッズを進呈。参加者は200名以上を数え、盛況であった。

## (5) 公開講座など

### ①ミュージアム市民講座

本年度から、毎月、土曜日に連続市民講座を開催した。内容は下記の通りである。

#### ■平成20年度・第1ステージ「島大の学者が語るモノ・フィールド研究の世界」

主催 島根大学ミュージアム・島根大学生涯学習教育研究センター

場所 島根大学生物資源科学部

#### 趣旨

島根大学では、永年にわたって、地域や世界の自然・歴史・文化に関わるフィールドワーク・モノに即した研究が行われてきた。本講座では、第一線で「モノ」「フィールド」を中心に研究してきた島根大学の多様な分野の専門研究者が、市民一般向けに分かりやすく講義する。

- ・第1回「島根大学の履歴書～文化財が語る松江キャンパスと周辺の歴史」

日時 平成20年6月28日（土） 午後1時～2時30分

講師 会下和宏（島根大学ミュージアム准教授）

- ・第2回「アフリカ東部ケニアの地層から、1千万年前のアフリカに吹いた風をよむ」

日時 平成20年7月12日（土） 午後1時～2時30分

講師 酒井哲弥（島根大学総合理工学部准教授・島根大学ミュージアム兼任研究員）

- ・第3回「大森文庫に見る江戸末期華岡家の薬方（やくほう）」

日時 平成20年8月9日（土） 午後1時～2時30分

講師 小林裕太（島根大学医学部教授・島根大学ミュージアム兼任研究員）

#### ■平成20年度・第2ステージ「島根・温故知新 ー江戸～平成のひと・まち・なりわいー」(まつえ市民大学連携講座)

主催 島根大学ミュージアム・島根大学生涯学習教育研究センター

島根大学「歴史・文化資源を活かした地域まるとミュージアム化実践プロジェクト」

まつえ市民大学

後援 松江開府400年祭推進協議会

場所 松江市市民活動センター・スティックビル

#### 趣旨

近年、松江開府400年、石見銀山の世界遺産登録等、島根県の歴史に関心が集まっている。

本講座では、江戸時代から現代までの島根の「ひと・まち・なりわい」について、歴史・文学・まちづくり政策を専門に研究している講師陣に講義してもらう。「温故知新」をテーマに、過去の歴史を学ぶだけでなく、それを通して21世紀の島根を展望するきっかけにしてもらう。

- ・第4回「風土記はどのように読まれ、広まったか ー出雲国風土記の流布と伝来」

日時 平成20年9月27日（土） 午後1時～2時30分

講師 大日方克己（島根大学法文学部教授）

- ・第5回「初代松江市長・福岡世徳（つきのり）の松江振興策」

日時 平成20年10月11日（土） 午後1時～2時30分

講師 竹永三男（島根大学法文学部教授）

- ・第6回「伝統的建造物群を活かしたまちづくり」

日時 平成20年11月22日（土） 午後1時～2時30分

講師 飯野公央（島根大学法文学部准教授）

・第7回「江戸時代における白潟本町と鉄（たたら）の流通」

日時 相良英輔（島根大学教育学部特任教授）  
講師 平成20年12月20日（土） 午後1時～2時30分

・第8回「江戸時代の結婚・出生 —石見銀山領の宗門改帳から見る」

日時 平成21年1月31日（土） 午後1時～2時30分  
講師 廣嶋清志（島根大学法文学部教授）

・第9回「松江藩の秘話について —実録の世界」

日時 平成21年2月14日（土） 午後1時～2時30分  
講師 田中則雄（島根大学法文学部教授）

・第10回『類題八雲集』にみる松江藩士の歌」

日時 平成21年3月14日（土） 午後1時～2時30分  
講師 蘆田耕一（島根大学法文学部教授）



第7回市民講座「江戸時代における白潟本町と鉄（たたら）の流通」(20.12.20)



第8回市民講座「江戸時代の結婚・出生 —石見銀山領の宗門改帳から見る」(21.1.31)

**江戸時代の結婚と出生率**  
**「宗門改」調べ研究成果**

松江大学特任教授  
相良英輔

島根の人や町、仕事の歴史を辿り、江戸時代の結婚と出生率を調査し、松江藩の宗門改帳からその実態を明らかにした。この調査は、江戸時代の結婚と出生率を調査し、松江藩の宗門改帳からその実態を明らかにした。この調査は、江戸時代の結婚と出生率を調査し、松江藩の宗門改帳からその実態を明らかにした。

江戸時代の結婚と出生率を調査し、松江藩の宗門改帳からその実態を明らかにした。この調査は、江戸時代の結婚と出生率を調査し、松江藩の宗門改帳からその実態を明らかにした。

山陰中央新報紹介記事（2009.2.1朝刊）

**松江藩秘話生き生き**

島根大学  
教授 田中則雄

島根の人や町、仕事の歴史を辿り、江戸時代の結婚と出生率を調査し、松江藩の宗門改帳からその実態を明らかにした。この調査は、江戸時代の結婚と出生率を調査し、松江藩の宗門改帳からその実態を明らかにした。

松江藩の秘話を紹介する田中則雄教授

松江藩の秘話を紹介する田中則雄教授

山陰中央新報紹介記事（2009.2.15朝刊）

毎回20～50名の受講者があり、特に後半になる程、連続して受講する固定客が増加した。アンケートで得られた主だった総評的な意見・感想は以下の通り。

- ・貴重な研究成果を、無料で聴講でき、ありがたく思います。
- ・地元の歴史を知り、興味深く拝聴しました。
- ・郷土の歴史を知ることにより、現在でも考え方等で利用できるのではないかと思います。
- ・楽しくユニークなお話が伺えました。
- ・「温故知新」の通り、古い事、また新たな事を学び、現在に生かしていきたいとの思いで参加いたしました。本当に良かったと思っています。
- ・高齢化が進んでいる今日ではありますが、現在生活している人々を交えてより有意義な講座にしてもらいたい（子供達にも一緒に聞かせたい。小・中・高校生）。
- ・これからも松江市の歴史・文化・自然に関するテーマを取り上げてほしい。
- ・様々なジャンルの内容の講座に参加したい。
- ・普段知らないようなことがたくさん理解できるので、今後もこういった講座を続けて頂くとありがたいです。
- ・松江に関連するテーマをとりあげてほしい。

## ②島根大学公開講座「第3回島根まるごとミュージアム体験ツアー ―弥生時代・出雲の青銅器文化をさぐる―」

日時 第1回：平成20年11月15日（土） 午後1時～2時30分

第2回：平成20年11月22日（土） 午前12時～午後5時

講師 会下和宏（島根大学ミュージアム准教授）

### 内容

今年、荒神谷遺跡で銅剣が発見されて24年目、加茂岩倉遺跡で銅鐸が発見されて12年目の節目にあたる。そこで今回の講座では、弥生時代を中心にした出雲の青銅器文化について学ぶとともに、実際に出土した現地に立ってみて遺跡を体感し、青銅器の謎について探っていく。

第1回：先史時代の日本や世界の青銅器文化の基礎知識についてスライドなどで講義。

第2回：荒神谷遺跡・荒神谷博物館（斐川町）、加茂岩倉遺跡・神原神社古墳（雲南市）、田和山遺跡（松江市）などをバスでめぐり現地見学。詳しく解説。

受講登録者数は24名。荒神谷博物館では学芸員から、田和山遺跡では遺跡解説ボランティアの方から解説していただいた。分かりやすい解説を聞きながら見学できたということで、大変好評だった。

## ③親子体験講座「夏休み子供ミュージアム体験教室・宍道湖水辺の生き物教室」

日時 平成20年8月10日（日） 午前10時～11時30分

場所 宍道湖グリーンパーク前宍道湖西岸多自然型護岸

協力 （財）ホシザキグリーン財団

後援 国土交通省中国地方整備局出雲河川事務所

対象 小学生（3年生以上）の親子 15組

講師 田中秀典（島根大学汽水域研究センター協力研究員・島根野生生物研究会会員）

森脇孝洋（国土交通省出雲河川事務所水環境課水質調査係長）

〔ティーチングアシスタント： 会下和宏・田中浩子（島根大学ミュージアム）〕

### 内容

最初に、講師から宍道湖の水辺における水質調査や葦帯復元について解説。その後、各自で、実際に水辺で生き物を採集し、種名などを同定して発表したり、水質調査を行ったりする。参加者は25名。

④親子体験講座「冬休み子供ミュージアム体験教室・虹を作って観察しよう！」

日時 平成20年12月21日（日） 午前10時～11時30分

場所 島根大学総合理工学部大学院棟

協力 島根大学総合理工学部

後援 松江市教育委員会

対象 小学生（3年生以上）の親子 15組

講師 森戸茂一（島根大学総合理工学部物質科学科物理分野物質構造講座准教授）

宮本光貴（島根大学総合理工学部物質科学科物理分野物質構造講座助教）

〔ティーチングアシスタント： 会下和宏・田中浩子（島根大学ミュージアム）、学生2名〕

内容

以下①②の内容で、簡単な工作によって光について学び、研究には不可欠な電子顕微鏡も覗いてもらう。

①「虹の見える万華鏡を作ろう ～虹（にじ）は光のプレゼント♪～」…ホログラムシートを使って虹の見えるふしぎな万華鏡を制作。

②「ここまで見えちゃう！？電子顕微鏡を使って観察をしよう ～原子（げんし）の世界を探検！～」…透過型電子顕微鏡の原理を解説して、試料を観察してもらう。

参加者は31名（15組）。募集開始後、2日目には定員オーバーになり、関心の高さを窺わせた。

⑤親子体験講座「春の子供ミュージアム体験教室・みんなでつくろうタイムカプセル！ 奥谷町を歩いて100年後の未来を描いてみよう」(どこでもミュージアム研究所主催「奥谷タイムトンネル」のなかの一企画)

日時 平成21年3月14日（土） 午後2時～5時

場所 城北公民館（松江市北堀町）

主催 どこでもミュージアム研究所

共催 島根大学ミュージアム

協力 城北公民館、桐岳寺、NPO 法人まつえ・まちづくり塾、FASHION office : Lyric、出雲かんべの里、有限会社明友電設

後援 島根県教育委員会、松江市教育委員会、島根大学教育学部、朝日新聞松江総局、毎日新聞松江支局、読売新聞松江支局、山陰中央新報社、NHK松江放送局、BSS山陰放送、日本海テレビ、山陰中央テレビ、エフエム山陰、山陰ケーブルビジョン株式会社

対象 小学生20名

講師 周藤豊治（島根大学大学院教育学研究科）

内容 松江市奥谷町にある島根大学旧奥谷宿舎を見学したり、周辺の町並みを歩いたりして、100年後のこの地域の未来を描いてもらう。できた作品は、城北公民館で展示した後、島根大学ミュージアムで永久に保管する予定。参加者は11名。



「夏休み・子どもミュージアム体験教室」で宍道湖の生き物調査（20. 8. 10）



「冬休み・子どもミュージアム体験教室」で光の性質を応用した万華鏡作り（20. 12. 21）

## (6) 講義 (島大ミュージアム学)

ミュージアムが開講する授業として、後期に特別講義「島大ミュージアム学」を公開授業で実施した。概要は以下の通りである。

**授業科目名** 「島大ミュージアム学～島根大学と島根県の自然・歴史・ひと・文化～」

**授業の目的** 島根大学で学ぶ学生は、県内外の出身地を問わず、島根県の自然・歴史・文化や本学の学校史、顕著な業績をあげた教官・卒業生などについての知識が希薄であるように見受けられる。そこで、本授業では、「ミュージアム」「フィールド」「モノ」をキーワードにして、島根県の自然・歴史・文化や島根大学の学校史・著名人（自校教育）などの基礎的事項について、学際的に学ぶものとする。あわせて、公開授業として地域市民にも聴講してもらう。

**達成目標** 島根県・島根大学について、広い基礎知識を得てもらおうようにする。本授業を通して、学生や地域市民のなかに、島根県や本学に対する誇り・愛着が醸成されることを期待する。

**科目** 共通教養科目 選択

**対象** 1・2年次、市民

**単位数** 2単位

**曜日・時間** 金曜日 2コマ目 (10:15～11:45)

**担当教員**

会下和宏 (島根大学ミュージアム准教授)

小泉 凡 (島根県立大学短期大学部准教授)

杵村喜則 (島根大学元助教授)

高安克己 (島根大学学術国際担当副学長)

松尾 寿 (島根大学名誉教授)

**講義内容**

日程	講義内容	講師
10月3日 (金)	1. 島大ミュージアム学ガイダンス (レポート出題)	会下和宏
10月17日 (金)	2. 発掘でわかった出雲地域の古環境	会下和宏
10月24日 (金)	3. 島根県の自然 ～植生を中心に～	杵村喜則
10月31日 (金)	4. 島根大学所蔵コレクション概説 -学内の展示施設見学- (レポート出題)	会下和宏
11月7日 (金)	5. 歴史環境のなかの島大キャンパス -大学周辺を歩く- (レポート出題)	会下和宏
11月14日 (金)	6. 島根大学 (松江キャンパス) 周辺の遺跡・史跡	会下和宏
11月21日 (金)	7. 島根大学 (出雲キャンパス) 周辺の遺跡・史跡	会下和宏
11月28日 (金)	8. 島根の鉄文化～たたら製鉄の発展と継承～	小泉 凡
12月5日 (金)	9. 島根県の歴史・偉人	会下和宏
12月12日 (金)	10. 島根大学史と島根県の近代高等教育 ～島大の前身校から国立島根大学まで～	会下和宏
12月19日 (金)	11. 松江城下町の歴史～城下町松江の誕生と町の構造～	松尾 寿
1月9日 (金)	12. 島根大学の著名人	会下和宏
1月14日 (水)	13. 島根大学の著名人Ⅱ	会下和宏
1月23日 (金)	14. 大学博物館とは	高安克己
2月6日 (金)	15. 期末試験 (選択問題100問出題)	—

受講登録者数は、学生185名、一般市民1名である。当初、受講希望者が350名以上を超え、授業の遂行上、受講者選抜をせざるをえなくなった。来年度は、開講して4年目でもあり、1年生のみに受講対象学年を限定したい。

受講者からは、「島根県は田舎だというイメージがあったが、豊富な自然・歴史があることを

知ることができ良かった。学内に以外と様々な標本資料が所蔵されていることを知り驚いた。島根大学キャンパスが遺跡のうえに立地していることを初めて知った。島根大学松江キャンパスからすぐ近くに歴史的景観を残す城下町があり、もっと歩いてみたい。島根大学が永い歴史をもつ伝統校であり多くの素晴らしい著名人を輩出し、自分も島大生として誇りを感じた。」等の感想がよせられた。

本年度は、第5回に松江城下町（松江市石橋町・奥谷町）を散策し、歴史的なまちの風景の価値を理解させ、これらの保護、今後の発展のあり方について考えさせることをねらいにした授業を実施した。来年度の授業では、松江市奥谷町にある島根大学旧奥谷宿舎が修復を終えて、活用される計画になっているので、本授業でもこの施設を積極的に活用し、より地域のフィールドに根ざした教育プログラムを開発していきたいと考えている。

## 4 博物館学教育

ミュージアム専任教員の会下和宏が、学芸員資格取得に必要な以下の授業を担当した。

- ・「博物館資料論」「博物館情報論」「博物館経営論」(法文学部開講)
- ・「考古学実習Ⅲ」(法文学部開講)
- ・「博物館実習に係る事前および事後指導」(島根大学生物資源科学部) に一部協力。

また、総合理工学部・生物資源科学部で開講している学芸員資格取得に必要な授業の非常勤講師控え室として、ミュージアム本館を提供し、あわせて授業準備等のサポートも行った。

なお、これまで学芸員資格取得に関する科目の開講や博物館実習の段取りは、各学部が個別的に実施していたが、次年度からはミュージアムが、これらの科目の開講を一元的に差配し、統一的教育方針のもとに資格取得できるように移行する予定である。

## 5 標本資料類等に関わる情報発信、地域貢献

### (1) 刊行物の発行・配布

下記の既刊・新刊刊行物を学内や学外関係諸機関、学校、県内観光施設等に配布した。

- ・携帯用パンフレット『島根大学ミュージアム』…ミュージアム展示を紹介。(A4サイズ・3つ折、平成18年度発行)
- ・パンフレット『学舎の履歴書～島根大学（松江キャンパス）と周辺の歴史～』…松江キャンパス内や周辺の遺跡等を紹介。(平成18年度発行)
- ・『いにしへのまちめぐり・松江温故知新（橋北版）』…松江旧市街（橋北地域）にある歴史・文化資源を江戸時代・昭和時代・現代の各地図にマッピングして解説した携帯用パンフレット。(平成19年度発行)
- ・『いにしへのまちめぐり・松江温故知新（橋南版）』…松江旧市街（橋南地域）にある歴史・文化資源を江戸時代・昭和時代・現代の各地図にマッピングして解説した携帯用パンフレット。(島根大学萌芽研究プロジェクトの一環でミュージアム教員が制作。)
- ・『島根大学ミュージアム年報～平成20年度』

### (2) インターネット

島根大学ミュージアムのホームページ(<http://museum.shimane-u.ac.jp/>)を随時更新した。

また、松江版地域 SNS 運営協議会による「まつえ SNS(<http://matsuesns.jp/>)」に参加して、ブログ機能などで活動日誌、イベント案内・報告などの情報発信を行った。

### (3) データベース

島根県遺跡データベース（平成15年度地域貢献事業によって島根大学地域貢献推進協議会が制作、<http://iseki.shimane-u.ac.jp/>）に島根県内の遺跡データ（遺跡・遺構・遺物・調査・文献データ）を登録した。データは、平成18・19年度刊行の発掘調査報告書など掲載の情報を整理して

収載した。

#### (4) 地域貢献活動

「3 標本資料類等に関わる教育、普及啓発」で前述した「(4) 展示案内・キャンパスツアーなど」「(5) 公開講座など」は、主に地域市民が対象であることから、地域貢献活動にも含まれる。

## 6 本学構内の埋蔵文化財の取扱い

### (1) 島根大学構内遺跡試掘調査・確認調査（学生支援センター新営工事予定地）

- ①調査場所 島根県松江市西川津町1060（旧字名：竹崎）（現学生センターの北隣、図2-①）
- ②調査機関 島根大学ミュージアム
- ③調査原因 学生支援センター新営工事に伴う埋蔵文化財の確認
- ④調査期間 平成20年4月23～24日
- ⑤調査目的 学生支援センター増改築に伴って予定地における埋蔵文化財の有無、内容を確認するために実施する。調査区は、「菅田」丘陵の東側裾部と沖積地の変換部に相当している。既設建物（現学生センター）や造成工事によって、既に基盤層が削平を受けている可能性があるため、当調査によって残存する遺物包含層の厚さや範囲などを確認し、本格的「発掘調査」計画をたてるうえでのデータにしたい。

#### ⑥調査成果

##### 調査経過

平成20年4月23日 近現代盛土重機掘削。第1層掘り下げ。基盤層確認。北壁写真撮影。北壁断面図作成。

4月24日 ミュージアム埋蔵文化財専門委員による現地検討会（ミュージアム埋蔵文化財専門委員会）開催。

#### 基本層序・遺物

層名	層相	標高(m)	遺物	堆積時期
近現代盛土		+2.0～3.5		大正～昭和
第1層	灰色粘土・オリーブ黒色粘土 (近代水田耕作土・盛土)	+1.5～2.3	陶磁器	近代
第2層	砂混じり灰色粘土	+1.5～1.7	なし	
第3層	基盤層（松江層、かたい灰色粘土・黄褐色粘土）	～+1.5～1.85	なし	

#### ⑦特記事項

調査の結果、第1層より下位の遺物包含層や基盤層が削平を受けておらず、良好に残存していることが判明した。同様に、既存建物（現学生センター）の下部も削平を受けていない。今後、調査区周辺で開発工事を実施する際には、全面「発掘調査」を実施する必要がある。

### (2) 島根大学構内遺跡第17次調査（竹崎地区2）

- ①調査場所 島根県松江市西川津町1060（旧字名：竹崎）（現学生センターの南隣、図2）
- ②調査名 島根大学構内遺跡第17次調査（竹崎地区2）
- ③調査略号 08S-17
- ④調査機関 島根大学ミュージアム
- ⑤調査原因 学生支援センター新営工事。（学生支援センターは、当初、現学生センター北隣に増築する計画であったため試掘調査・確認調査などを実施したが、諸般の事情によって計画変

更され、現学生センター南側に設置されることになった。)

⑥調査面積 486m<sup>2</sup>

⑦調査期間 2008年7月17日～9月24日

⑧調査成果

#### 調査経過

平成20年7月17日～19日 近現代盛土重機掘削。

7月21日～8月1日 第1層掘り下げ。

8月4日 第1層上面の掃除・全景写真撮影（南から）。

8月5日～6日 第3層掘り下げ。

8月6日～29日 第4層掘り下げ。

8月28日～9月9日 第5層掘り下げ。

9月1日 第5層上面の材出土状況写真撮影（西半分）。

9月10日～12日 第6層上面の掃除・全景写真撮影・北壁と西壁断面写真撮影。

9月12日 第6層の部分的掘り下げ（断ち割り）。

9月15日～24日 図面作製。補足調査。

9月18日 ミュージアム埋蔵文化財専門委員による現地検討会（ミュージアム埋蔵文化財専門委員会）開催。



図2 島根大学構内遺跡第17次調査位置図 (1/5,000)

## 基本層序・遺物

層名	層相	標高(m)	遺物	堆積時期
近現代盛土				大正～昭和
第1層	しまったオリブ黒色粘土 (近代水田耕作土)	(+1.1～1.2) ～+1.5	陶磁器、須恵器など	近代
第3層	黄褐色細砂 (砂州層)	(+0.8～1.0) ～(+1.1～1.2)	なし	縄文
第4層	暗オリブ灰色シルト (海成層)	-0.8～+1.0	縄文土器、石錘、焦痕 のある材、流木、礫	縄文
第5層	砂礫混じりのオリブ黒色シル ト。拳大の礫を多量に含む。	-0.9～+0.6	自然礫	?
第6層	基盤層(松江層ほか)	～-0.9～+0.7	なし	

### ⑨特記事項

- ・基盤層や縄文期の砂州・海成層などを検出し、構内西部の旧地形や古環境を復元する手がかりが得られた。
- ・縄文土器、石錘、焦痕のある材などが出土し、縄文時代の水辺での活動を知る一資料となった。

### (3) 島根大学構内遺跡試掘調査(教養講義室棟1号館改修工事予定地)

- ①調査場所 島根県松江市西川津町1060(旧字名:菅田)(教養講義室棟1号館東壁沿い、図2-②)
- ②調査機関 島根大学ミュージアム
- ③調査原因 教養講義室棟1号館東壁の耐震補強壁増設に伴う埋蔵文化財の確認
- ④調査期間 平成20年12月18日
- ⑤調査目的 教養講義室棟1号館東壁に沿って、耐震補強壁を増設するため、埋蔵文化財の有無、内容を確認するために実施する。
- ⑥調査成果  
平成20年12月18日 近現代盛土重機掘削。北壁写真撮影。北壁断面図作成。ミュージアム埋蔵文化財専門委員会による現地検討会(ミュージアム埋蔵文化財専門委員会)開催。

### ⑦特記事項

調査の結果、厚さ0.4～0.9mの近現代盛土下位は、基盤層(松江層)であることが検出され、調査区内は既に、1920(大正9)年頃の旧制松江高校校地造成によって削平を受けていることが判明した。したがって、「慎重工事」で対応することになった。

### (4) 島根大学出雲キャンパス構内遺跡試掘調査(附属病院立体駐車場建設予定地)

- ①調査場所 島根県出雲市塩冶町89-1 トレンチ3箇所(図3-①)
- ②調査機関 島根大学ミュージアム
- ③調査原因 附属病院立体駐車場建設工事に伴う埋蔵文化財の確認
- ④調査面積 16㎡×3箇所
- ⑤調査期間 平成20年12月8日～26日
- ⑥調査目的 附属病院立体駐車場建設地における埋蔵文化財の有無、遺構・遺物包含層の量などを確認し、その後の対応を決定する材料にするため。

### ⑦調査成果

#### 調査経過

平成20年12月8日～11日 東トレンチ調査。

12月15日～17日 西トレンチ調査。

12月22日～26日 中央トレンチ調査。

12月24日 ミュージアム埋蔵文化財専門委員会による現地検討会(ミュージアム埋蔵文化財専門委

員会) 開催。

## 基本層序・遺物 (図4)

### ・東トレンチ

層名	層相	標高(m)	遺物	堆積時期
近現代盛土		+6.6~8.1		昭和
第1層	オリーブ黒色泥土 (大学造成前水田)	+5.7~6.6	陶磁器	近世?~近代
第2層	暗灰黄色粘土 (植物生痕あり) など	+5.5~6.0	なし	不明
第3a層	オリーブ黒色シルト 暗オリーブ灰色細砂など	+3.4~5.8	なし	不明
第3b層	黒褐色シルト	~+1.9~3.6	なし	不明

### ・中央トレンチ

層名	層相	標高(m)	遺物	堆積時期
近現代盛土		(+5.7~5.8) ~+8.1		昭和
第1層	オリーブ黒色泥土 (大学造成前水田)	(+5.1~5.3) ~ (+5.7~5.8)	陶磁器	近世?~近代
第2層	黒褐色粘土	(+4.7~5.2) ~ (+5.1~5.3)	なし	不明
第3a層	オリーブ黒色シルト オリーブ黒色細砂 黒褐色粘土	(+3.2~3.4) ~ (+4.7~5.2)	なし	不明
第3b層	灰色粗砂	~+2.8 ~(+3.2~3.4)	自然礫 (三瓶山デイサイト: 約3600y.BP)	縄文後期

### ・西トレンチ

層名	層相	標高(m)	遺物	堆積時期
近現代盛土		(+5.9~6.0) ~+8.1		昭和
第1層	オリーブ黒色泥土 (大学造成前水田)	+5.3~ (+5.9~6.0)	陶磁器	近世?~近代
第2層	黒褐色粘土	(+4.8~4.9) ~+5.3	なし	不明
第3層	オリーブ黒色細砂 オリーブ黒色シルト 灰色細砂	~+2.0~4.9	標高+3.5m以下で自然礫 (三瓶山デイサイト: 約3600y.BP)	標高+3.5m以下は縄文後期

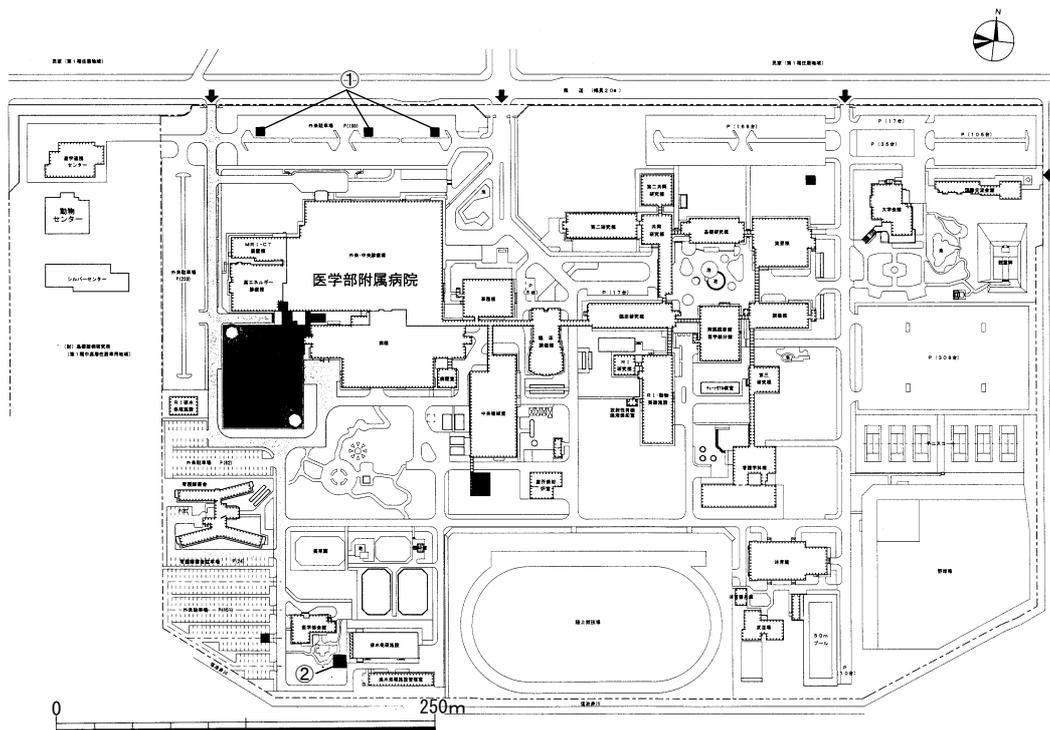


図3 島根大学出雲キャンパス構内遺跡試掘調査位置図 (1/5,000)

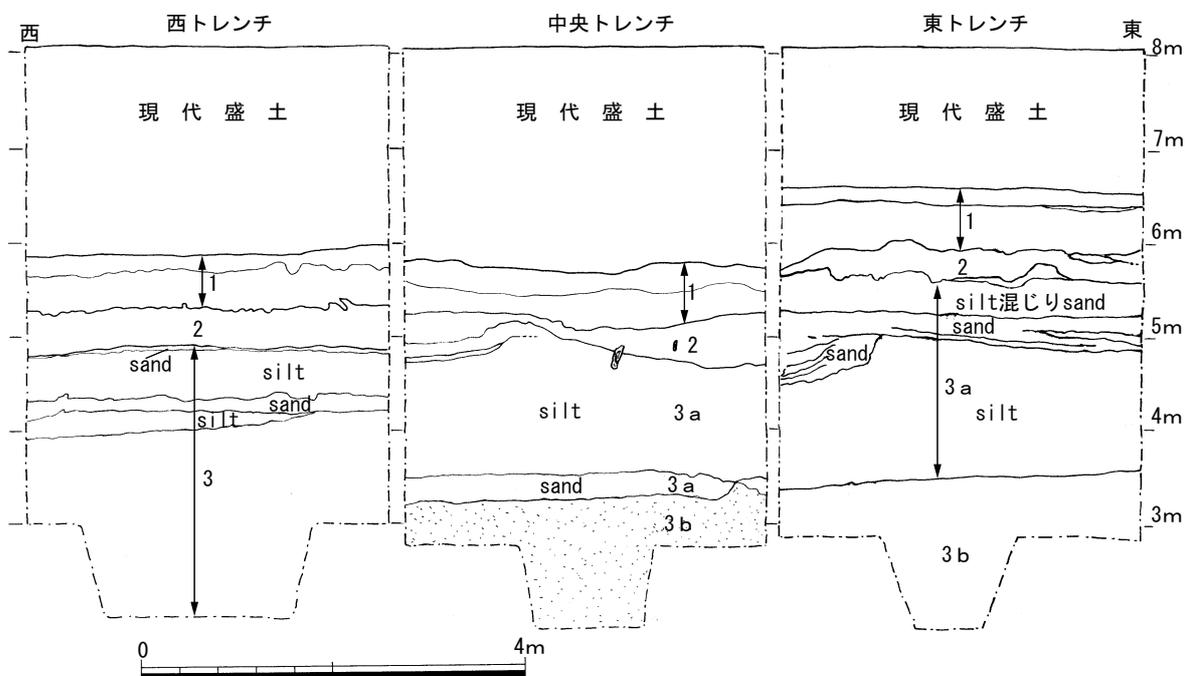


図4 附属病院立体駐車場建設予定地試掘区北壁断面図 (1/80)

## ⑧特記事項

調査の結果、近現代水田耕作土である第1層より下位の第3層は、主として神戸川の沖積活動による堆積であることが判明した。

また、西トレンチと中央トレンチからは、縄文後期に比定される三瓶山起源のデイサイトが出土している。調査区は、縄文後期以来、神戸川の氾濫原や流域低湿地の環境にあったことが想定できる。

以上の堆積環境や第2～3層において遺物の出土がみられないことから、開発区域において埋蔵文化財が存在する可能性は極めて低いことが想定される。したがって、今回の開発工事には、「慎重工事」で対応することになった。



調査風景（中央トレンチ）



東トレンチ北壁断面



中央トレンチ北壁断面



西トレンチ北壁断面

### (5) 島根大学出雲キャンパス構内遺跡試掘調査（医学部会館保育所増設予定地）

- ①調査場所 島根県出雲市塩冶町89-1 トレンチ1箇所（図3-②）
- ③調査機関 島根大学ミュージアム
- ④調査原因 医学部会館保育所増設工事に伴う埋蔵文化財の確認
- ⑤調査面積 100m<sup>2</sup>
- ⑥調査期間 平成20年12月22日～25日
- ⑦調査目的 医学部会館保育所増設予定地における埋蔵文化財の有無、遺構・遺物包含層の量などを確認し、その後の対応を決定する材料にするため。

#### ⑧調査成果

##### 調査経過

12月22日 重機掘削

12月23～25日 第1～2層掘り下げ。

12月24日 ミュージアム埋蔵文化財専門委員による現地検討会（ミュージアム埋蔵文化財専門委員会）開催。

12月25日 西壁写真撮影。西壁断面図作成。

12月25日 重機による第2b層掘り下げ。

### 基本層序・遺物（図5）

層名	層相	標高(m)	遺物	堆積時期
近現代盛土		(+7.0～7.2) ～+10.9		昭和
第1層	オリーブ黒色粘土 (大学造成前水田)	(+6.8～6.9) ～(+7.0～7.2)	陶磁器	近世?～近代
第2a層	オリーブ黒色シルト・灰オリーブ色シルト	+6.5 ～(+6.8～6.9)	なし	不明
第2b層	オリーブ黒色シルト	(+6.2～6.3) ～+6.5	なし	不明
第2c層	灰色粗砂	～+5.4 ～(+6.2～6.3)	自然礫（三瓶山デイス イト）	

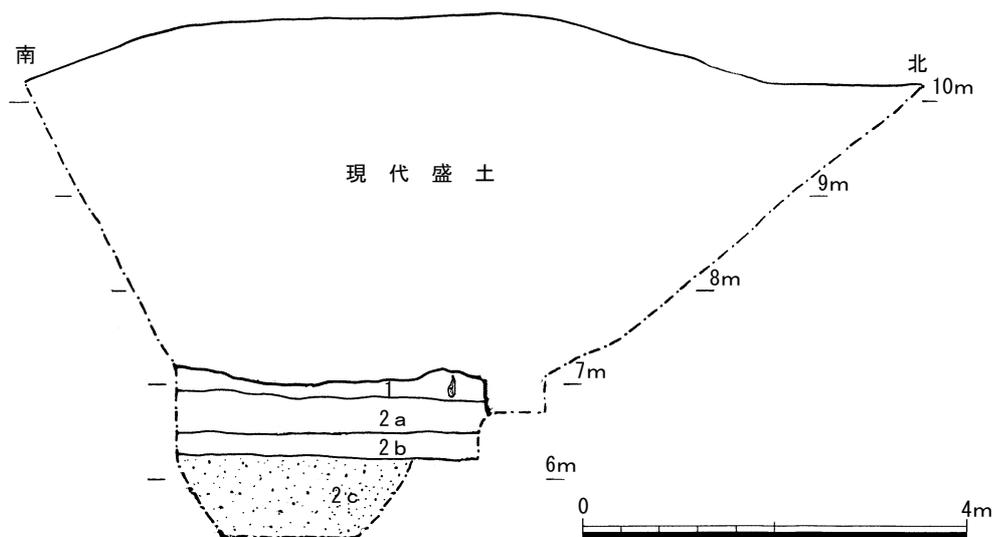


図5 医学部会館保育所増設予定地試掘区西壁断面図（1/80）

### ⑧特記事項

調査の結果、近現代水田耕作土である第1層より下位の第2層は、主として神戸川の沖積活動による堆積であることが判明した。第2c層からは、縄文後期に比定される三瓶山起源のデイスイトが出土している。調査区は、縄文後期以来、神戸川の氾濫原の環境にあったことが想定できる。

以上の堆積環境や第2層において遺物の出土がみられないことから、開発区域において埋蔵文化財が存在する可能性は極めて低いことが想定される。したがって、今回の開発工事に際しては、「慎重工事」で対応することになった。

## (6) 工事立会

松江キャンパス、総合研究棟南東側足洗い場設置工事、学生センター前掲示板設置工事等に際し、工事規模が狭小で、深度も近現代盛土の範囲内に留まり、地下の埋蔵文化財に影響がないことから、工事立会で対応した。

平成21年2月末から3月初頭に逐次、立会した結果、いずれも近現代盛土の範囲内に留まる工事であり、埋蔵文化財への影響はないことを確認した。

## (7) 島根大学構内遺跡第14・15・16・17次調査、島根大学出雲キャンパス構内遺跡試掘調査の整理・研究

上記調査のほか、平成17年度に実施した島根大学構内遺跡第14次調査（ボーダフォン株式会社携帯電話アンテナ設置工事に伴う発掘調査）、平成18年度に実施した同遺跡第15次調査、平成19年度に実施した同遺跡第16次調査、上記の同遺跡17次調査等の出土遺物の洗浄・実測・トレース、遺構図面トレースといった室内整理作業を進めた。

## 7 その他

### (1) 島根大学旧奥谷宿舎の保存活用事業に関する活動

平成18年度、松江市奥谷町所在の旧制松江高等学校に係る唯一の建築物「島根大学旧奥谷宿舎（旧制松江高等学校外国人宿舎）」が、歴史的・建築学的価値をもち、地域住民の保存要望もあったことから、修復・活用されていく方針になった。これをうけて、宿舎の保存活用策の検討をミュージアムが担当することになり、ミュージアム普及啓発専門委員会の下にワーキンググループが設置され、修復活用するために必要な基礎調査や普及啓発活動を実施した。

平成19年10月からは、この事業に対して、学外有識者の協力も得ながら、より全学的に取り組むべく、「旧奥谷宿舎修復活用事業準備委員会」が設置され、ミュージアム専任教員・兼任研究員・管理運営委員等も加わった委員によって、保存修復に関わる諸活動が遂行された。ミュージアムでは、当委員会と協力しつつ実務レベルで下記のような宿舎の建築・居住者に関する調査研究や普及啓発活動等を実施した。

なお、宿舎は、平成21年秋までに修復工事を完了し、サテライトミュージアム、サテライト教室、市民の交流拠点として活用されていくことが、大学長を始めとする学内外関係者のご英断によって、正式決定された。ご理解、ご支援を賜った地域市民、学内教職員、卒業生の方々には、改めて敬意と感謝の意を表したい。

### ① 主な活動抄録

平成20年4月27日 カルシュ博士の教え子である永井隆氏を顕彰した「永井隆博士・生誕百年記念コンサート・講演会（雲南市・島根大学医学部共催）」でパネル展示を実施。

平成20年5月21日 第3回「国登録文化財・島根大学旧奥谷宿舎（旧制松江高校外国人宿舎）の保存活用を考えるワークショップ（参加型学習会）」を開催。

平成20年9月28日 松江市立玉作資料館友の会30名が旧奥谷宿舎を見学。

平成20年10月11日 第4回「国登録文化財・島根大学旧奥谷宿舎（旧制松江高校外国人宿舎）の保存活用を考えるワークショップ（参加型学習会）」を開催。

平成20年11月1日 NPO法人「松江まちづくり塾」20名が旧奥谷宿舎を見学。

平成21年3月6日～22日 旧奥谷宿舎周辺で「奥谷タイムトンネル」開催。（どこでもミュージアム研究所主催・島根大学ミュージアム共催）

### ②第3回「国登録文化財・島根大学旧奥谷宿舎（旧制松江高校外国人宿舎）の保存活用を考えるワークショップ（参加型学習会）」の内容

主催 島根大学旧奥谷宿舎修復活用事業委員会・島根大学ミュージアム（共催）

日時 平成20年5月21日（水）午後5時30分～7時

**場所** 島根大学（出雲キャンパス）・医学部看護学科棟1階 N11番教室

#### **趣旨**

島根大学では、現在、松江市奥谷町・島根大学旧奥谷宿舎（旧制松江高校外国人宿舎）の保存修復・活用を検討している。この事業をすすめるにあたって、地域市民・大学職員らで宿舎の諸情報、記憶、活用策を共有することが不可欠であると考え、これまで2回のワークショップ（参加型学習会）を松江で開催してきた。

第3回ワークショップは、出雲の市民や教職員にも、旧奥谷宿舎について理解を深めてもらえればと考え、企画した。戦前、この建物に長らく住まわれた旧制松江高校・フリッツ・カルシュ先生の教え子のなかには、「長崎の鐘」で有名な医学博士・永井隆先生などもおられ、島根大学医学部での教育を考えるうえでも示唆に富んだ内容になるものと期待される。

#### **プログラム**

1. 挨拶 「ワークショップ開催にあたって」  
高安克己（島根大学学術国際担当副学長・島根大学旧奥谷宿舎修復活用事業委員会委員長）
2. 調査報告 「米国でのメヒテルトさん（カルシュ博士長女）への聞き取り調査」  
益田順一（島根大学医学部教授）
3. 基調講演 「宿舎に暮らしたフリッツ・カルシュ博士と旧制松江高校」  
若松秀俊（東京医科歯科大学大学院教授）
4. 質疑応答

### **③第4回「国登録文化財・島根大学旧奥谷宿舎（旧制松江高校外国人宿舎）の保存活用を考えるワークショップ（参加型学習会）」の内容**

**主催** 島根大学旧奥谷宿舎修復活用事業委員会・島根大学ミュージアム（共催）

**日時** 平成20年10月11日（土） 午前10時～11時30分

**場所** 島根大学（松江キャンパス）・教養講義室棟2号館・501教室

#### **趣旨**

島根大学旧奥谷宿舎（旧制松江高校外国人宿舎）は、もともとは大正13年、旧制松江高等学校の外国人教師が居住するために建てられたものである。

戦後は、新制島根大学に受け継がれた昭和26～31年、バーソルド・アロンスタイン博士という米国から派遣された島根大学の先生が暮らしていた。

アロンスタイン先生は、毎週水曜日、旧奥谷宿舎のダイニングルームで島根大学の教官・学生・市民などを招いて英会話教室を主宰され、その温厚な人柄から「アロンさん」という愛称で親しまれていた。

第4回のワークショップは、戦後になってからの旧奥谷宿舎に住まわれたアロンスタイン先生について、当時を知る方々に語ってもらい、島根大学や島根県の英語教育に及ぼした影響、戦後間もなくの松江の国際交流の様子について考える。

#### **プログラム**

1. 挨拶 「ワークショップ開催にあたって」  
高安克己（島根大学学術国際担当副学長・島根大学旧奥谷宿舎修復活用事業委員会委員長）
2. 報告 「写真でみる昭和20年代の新制島根大学と旧奥谷宿舎」  
会下和宏・田中浩子（島根大学ミュージアム）
3. 話題提供 「アロンスタイン博士の英語教育」  
池野誠（島根大学法文学部同窓会顧問・山陰文芸協会会長）  
伊藤亮輔（松江八雲会顧問・山陰日本アイルランド協会理事）
4. 話題提供 「アロンスタイン博士と国際交流」  
金築修（島根大学元学長）・常松正雄（島根大学名誉教授）
5. フリートーク・質疑応答

#### **講演についての感想**

・大変参考になりました。

- ・アロンスタイン先生の思い出、足跡、英語教師としての歴史的意義は大きいものであり、講演を通して再認識しました。
- ・写真の説明に参加者の方からの修正が入って面白かったです。帰国後のアロンスタイン博士の足跡を知りたいと思いました。関係する物品なども集めて頂けると良いと思いました。
- ・初めて参加致しましたが、「奥谷宿舎」の概略がつかめました。
- ・アロン先生、褒める教育・実用会話の体験学習型の重要性を感じました。また、アロン先生の教育に対する情熱を感じました。
- ・大変参考になりました。松江に生まれ育った私にとって奥谷宿舎は原風景の一つであり、Dr. カルシュ、Dr. アロンのお人柄供々、次の世代に伝えねばと強く願っております。それだけに、今回の様に奥谷宿舎について学べるチャンスは貴重でございます。どうもありがとうございました。
- ・アロンさんの事績がよくわかりました。私は松江高校に昭和29～31年の間、在学しました。毎週のESSの集まりにアロンさんが指導に来られ、アメリカのハイスクールの言葉ゲームや英語劇の指導をされました。私の父の話では、奥谷宿舎には、松徳学園のシスターが住んでいたことがあったそうです。
- ・55年も前にタイムスリップして、懐かしい時間を持つことができました。今も英語を続けているのは、アロンさんのおかげかも。

#### 今後の旧奥谷宿舎の保存活用に対する意見

- ・私は日本建築史・都市史が専門です。建物の復元・評価が研究の中核です。もしよければ私の研究室においても、旧奥谷宿舎について研究のお手伝いできればと思っております。お声をかけていただければ幸いです。
- ・法文学部同窓会の事務局をしています。毎年発行する同窓会年報「湍喬」にアロンスタイン先生を紹介したいと思いました。同窓生でもアロンスタイン先生が島大におられた頃の文理期の方は関心が高いと思います。改めて相談させて頂きたいと思います。
- ・アロンスタイン博士杯英語弁論大会を復活させましょう！
- ・英語教育者アロンスタイン博士のお気持ちに即し、英会話サロンの復活が活用方法に適切かと思われました。
- ・イベントの一つとして英語劇を！！
- ・広く学外、特に松江市民、さらに地元町内の方との話し合い・ワークショップを行いながら保存活用をお願いします。大学関係者が町内夏祭を手伝うなど「大学から歩み出す」必要があると痛感しております。
- ・あの建物に懐かしい思い出を持つ人が、島大以外に多くいらっしゃるの、これらの人たちにも運動の輪を広げられるとよいと思います。



旧奥谷宿舎に暮らしたフリッツ・カルシュ博士について語られる若松秀俊・東京医科歯科大学大学院教授  
(第3回ワークショップ、20.5.21)



旧奥谷宿舎に暮らし、英会話教室を主宰したアロンスタイン博士について語られる金築修・元島根大学学長  
(第4回ワークショップ、20.10.11)

- ・国際交流センターとして活用しては？
- ・英語に限らず、アジア諸国の言語を学べる施設として活用できないか？これからは日本にとってアジアが大切だと思います。

#### ④どこでもミュージアム研究所主催「奥谷タイムトンネル ～古くて新しい島根をさがしに」

地元芸術家によるどこでもミュージアム研究所主催のイベントに島根大学ミュージアムが共催したもの。

**日時** 平成21年3月6日（金）～22日（日）

**会場** 城北公民館（松江市北堀町）

**主催** どこでもミュージアム研究所

**共催** 島根大学ミュージアム

**協力** 城北公民館、桐岳寺、NPO 法人まつえ・まちづくり塾、FASHION office : Lyric、出雲かんべの里、有限会社明友電設

**後援** 島根県教育委員会、松江市教育委員会、島根大学教育学部、朝日新聞松江総局、毎日新聞松江支局、読売新聞松江支局、山陰中央新報社、NHK 松江放送局、BSS 山陰放送、日本海テレビ、山陰中央テレビ、エフエム山陰、山陰ケーブルビジョン株式会社

##### 主なイベント

###### ・地元の芸術家による展覧会

**日時** 平成21年3月7日（土）、8日（日）、13日（金）、14日（土）、15日（日）、20日（金）、21日（土）、22日（日）午後1時～6時

**会場** 松江市奥谷町・島根大学旧奥谷宿舎周辺（旧中井邸、旧三島邸、金坂邸）

**内容** 島根大学旧奥谷宿舎周辺の一般住宅を借りて展示会場にした、下記の地元芸術家による作品展。奥谷のまちを散策しながら、日常的な空間に置かれた芸術作品を楽しんでもらう。

- ・アート：石上城行（彫刻）、佐野行徳（平面）、周藤豊治（金属造形）、高嶋敏展（写真）、福井一尊（インスタレーション）
- ・クラフト：天野尚（藍染）、岩瀬昭子（アクセサリー）、村山創達（木工芸）、石橋優（陶芸）、アカリノアリカ（羊毛）、吾郷直紀（ノート）

###### ・展覧会関連ワークショップ

###### ■彫刻体験ワークショップ

**日時** 平成21年3月7日（土）午後2時～5時

**講師** 石上城行

**対象** 小学校3年生以上（定員10名）

**内容** 展示作品を鑑賞するギャラリートークとあわせて、簡単な彫刻の制作技法を体験。

###### ■デジタルカメラで奥谷のステキ探し

**日時** 平成21年3月15日（日）午後2時～5時

**会場** 旧三島邸

**講師** 高嶋敏展

**対象** 中学生以上（定員15名）

**内容** デジカメ片手に奥谷の“素敵”を撮影。会場に戻ってスライドプロジェクターで上映会を行う。

###### ■鑑賞体験ワークショップ

**日時** 平成21年3月8日（日）午後2時～3時

**会場** 旧中井邸

**対象** 中学生以上（定員10名）

**内容** 鑑賞者が参加することで完成する参加型アート。参加者と一緒に展示空間全体を使って作品を作り上げる。

・衣装パフォーマンス「記憶：時間の風 夢の風」

日時 平成21年3月6日（金）午後2時（開場午後1時30分）

会場 桐岳寺

構成・演出・衣装 時広真吾（衣装デザイナー）

出演 人村朱美（女優）、朱鷺たたら（横笛）

内容 欧州のシェークスピア・フェスティバルに招聘されるなど、世界的に活躍する衣装デザイナーの時広真吾氏が、奥谷の名刹・桐岳寺本堂にてパフォーマンスを行う。華麗な衣装が横笛と共に届ける幻想的な空間を堪能してもらう。

・みんなでつくろうタイムカプセル！ 奥谷町を歩いて100年後の未来を描いてみよう（春の子供ミュージアム体験教室）」

「3（5）公開講座など」を参照。

・シンポジウム「奥谷タイムトンネル」

日時 平成21年3月21日（土）午後2時

会場 城北公民館（松江市北堀町）

ゲスト 土居原作郎（大阪芸術大学客員教授）

内容 NHK連続テレビ小説「心はいつもラムネ色」「はっさい先生」などを手掛けたテレビドラマのプロデューサーが、松江の魅力、楽しさを語る。普段は気づかない松江の「素敵」を一緒に発見することがねらい。

## （2）大学博物館等協議会2008年大会（第3回博物科学会）への参加

大学博物館等協議会は、会員相互で緊密に連絡・協力をとりあって、大学等における学術標本の収集・保存・活用の向上を図り、教育・研究の進展に寄与することを目的としたものである。

2008年度は、6月5～6日、大阪大学にて開催された。第3回博物科学会では、専任の会下和宏が、「島根大学周辺におけるフィールド・ミュージアム化の試み」と題して研究発表を行うとともに、島根大学ミュージアムの活動を紹介するポスターセッションにも参加した。

## 8 ミュージアム教員の活動記録

### （1）会下和宏 EGE Kazuhiro 准教授

#### 論文ほか

- ・会下和宏「漢代における璧・鏡・刀剣の副葬配置について」『渡邊貞幸先生退職記念論集 考古学と歴史学』2009.3

#### 研究発表等

- ・会下和宏「島根大学周辺におけるフィールド・ミュージアム化の試み」『第3回博物科学会』博物科学会 2008.6.6（於・大阪大学）
- ・会下和宏「松江市橋南地区の歴史・文化資源について」『歴史・文化資源を活かした「地域まるごとミュージアム」化実践プロジェクト・第5回研究例会』島根大学萌芽研究プロジェクト：歴史・文化資源を活かした「地域まるごとミュージアム」化実践プロジェクト 2008.12.10（於・島根大学）
- ・会下和宏「歴史・文化資源を活かした『地域まるごとミュージアム』化実践プロジェクト ～島根大学旧奥谷宿舎を取り巻く「ひと・まち・なりわい」をキーワードにして～」『島根大学プロジェクト研究推進機構平成20年度研究成果報告会』島根大学プロジェクト研究推進機構 2009.2.24（於・島根大学）

#### 社会的活動（島根大学ミュージアム主催のものは省略）

- ・報告「遺跡データベースと遺跡資料リポジトリ」『遺跡資料リポジトリ・セミナー』遺跡資料リポジトリ・プロジェクト推進ワーキング(NII-CSI 委託事業) 2009.2.26（於・岡山大学）

- ・フィールドワーク「松江市内の名所旧跡」「荒神谷遺跡・加茂岩倉遺跡・四隅突出型墳丘墓」「石見銀山遺跡群・石見銀山資料館・大森の町並み・温泉津温泉と町並み」『出雲シニアカレッジ・平成出雲塾2009』島根大学・島根県立古代出雲歴史博物館 2009.3.9～12

#### **担当授業**

次の授業を担当した。

- ・「博物館資料論」「博物館情報論」「博物館経営論」(島根大学法文学部)
- ・「考古学実習Ⅲ」(島根大学法文学部)
- ・「島大ミュージアム学」(島根大学ミュージアム、公開授業)(分担)
- ・「博物館実習に係る事前および事後指導」(島根大学生物資源科学部)に一部協力。
- ・「環日本海の考古学」(放送大学) 2008.8.16～17 (学外非常勤講師)



---

## 島根大学ミュージアム年報

平成20年度

発行 2009年3月31日

発行者 島根大学ミュージアム

〒690-8504 松江市西川津町1060

電話 (0852) 32-6496

印刷 株式会社報光社

---